

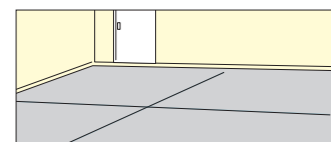
ビニル床タイルの施工方法とメンテナンス

施工について

1. 下地の点検 下地の善し悪しによって仕上がりが左右されます。下地の点検を行い、不備のないようにしてください。

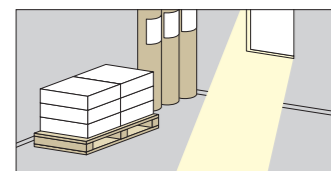
点検項目	チェックポイント	起き得る問題
① 平滑さ	下地に不陸や目違い、段差、クラックなどがないか。	接着剤が均一に塗布されず、接着不良、ふくれなどが発生。
② 乾燥	下地の含水率が水分計で測定して、8%以下であるか。 木質下地の場合、合板は1類以上の耐水性のあるものを使用してください。	下地が十分乾燥していないと、どのような接着剤でも接着不良を起こす。
③ 強度	モルタル下地で表面の粉ふきや浮きがないか。木質下地できしみやたわみがないか。	施工後、床材の剥離や浮きなどが発生。
④ 汚れ	ホコリ、油、ペンキなどの下地の汚れが完全に除去されているか。	施工後、床材の剥離や浮き、変色などが発生。

※ 床暖房下地への施工はお避けください。



2. 割り付け・墨出し

● 施工現場を実測し、割り付け図をもとにして、割り付け、墨出しをします。



3. 材料保管

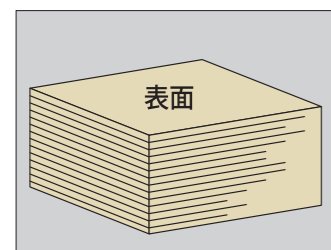
● 材料保管の善し悪しによって仕上がりが左右されます。
ビニル系床材は温度による影響を受けやすいので、特に冬季の保管管理は重要です。

- ① 乾燥した平坦な室内に保管し、直射日光は避けてください。
- ② 室内温度10～25℃、湿度75%以下での保管が最適です。



4. 材料確認

● 品番・ロット番号を確認し、同一場所に他のロットのものが混ざらないようにしてください。

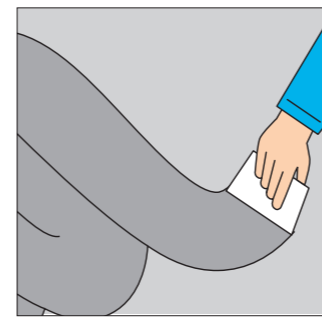


5. 養生

⚠ **ビニル系床材は温度による影響を受けやすいので、特に冬季の養生管理は重要です。養生を十分に行わずに施工しますと、施工後温度差による材料の伸びによって突き上げなどを起こします。**

● 10℃以上に保たれた室内の平滑な場所でタイルを箱から取り出して、表面を上にして1～2日間程度積み重ね、クセを取り除いてください。特に冬季はクセが取れにくいので、必ず箱から出してください。

6. 接着剤塗布



● 接着剤はアドヴァンの専用接着剤を推奨します。
● 使用前に接着剤の容器に記載されている事項をご参照ください。
● 木下地など通気性の少ない下地は接着剤の溶剤が抜けにくいので、残留溶剤による塩ビタイルの伸びを引き起こし、施工後の突き上げを発生させることがあります。その場合は、接着剤の塗布量を標準より少なめにし、オープンタイムを長めにとってください。

● アドヴァン専用接着剤以外の接着剤をご使用の際のクレーム等はお受けできません。
● クッションフロアなどの既存床の上に重ねて施工しないでください。施工後、突き上げ、剥離などの問題が発生することがあります。
● 施工は専門業者にご依頼ください。

専用接着剤 (モルタル、木質下地)

一般工法

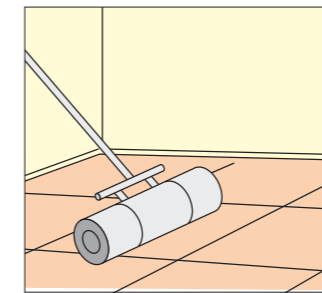


● アクリル樹脂系エマルジョン形は必ずビニル床タイル用のものを使用してください。また、施工から完全硬化までの間、気温が15℃以上であることを確認してください。ビニル床シート用のものを使用したり、15℃を下回る環境で施工した場合、後日、突き上げ、目地隙さ、剥離などを発生させる可能性があります。

耐水工法



7. 貼り付け・圧着



● 墨に沿って中心点から貼り、目違い、目地ずれのないように、ハンドローラー等で圧着しながら貼り付けます。
● 接着可能時間内に45kg以上のローラーなどでよく圧着します。
● 接着剤が硬化するまでは、冷暖房による急激な温度変化や直射日光は避けてください。

⚠ **ビニル床タイルは、急激な温度変化によって伸び縮みする性質があります。また、接着剤は低温ですと硬化が遅れ、温度が変化した時の材料の伸縮を抑えるだけの接着力が得られないため、突き上げなどの原因になります。さらに、店舗など窓の大きい場所付近に施工する場合の直射日光や冷暖房による急激な温度変化にも十分注意してください。特に冬季は寒さによりタイルが縮んでいます。施工後、室内との温度差によるタイルの伸びを予測し、貼り付けは強く突きつけず、名刺1枚程度すかして軽く突きつけるように施工してください。**
⚠ **壁際などの端部は、隙、浮きのないように納まりよくカットし、ハンドローラー等で入念に圧着してください。圧着不足は接着不良につながり、後日突き上げ、剥離などを引き起こす原因になります。**

8. 目違い修正

● 接着可能時間内に目立つ目違いはハンドローラーで圧着、調整してください。接着剤が硬化してからでは修正できません。

⚠ **白をはじめ、比較的用い色のタイルは、目地のすき間が名刺1枚分程度あっても目立ちます。製造上の寸法誤差や下地不陸のためにすき間が発生する場合があります。必ず目違い修正して、すき間がなるべく目立たないようにしてください。**

メンテナンス



● 日常の掃除は、ホウキ、掃除機などでホコリや塵を除去し、固く絞ったモップ、雑巾等で水拭きしてください。



● 歩行頻度にもよりますが、月に2～3回のワックスかけをおすすめします。



● ひどい汚れは中性洗剤などをうすくとかし、雑巾等で拭き取った後、水拭きします。

【床材を長持ちさせるために】



● 外部からの土や砂の持ち込みは、床材表面を傷つけて摩耗を早めるなどの原因になります。出入口にはマット類などの設置が必要です。



● 傘などからの雨水は、目地や継目から水分が浸透し、剥離の原因となります。出入口にマット類、傘立て等を用意してください。雨水が持ち込まれた時は、直ちに除去するようにしてください。



● ハイヒールや家具など局部荷重を受けますと、圧痕が残る可能性がありますので注意してください。



● タイヤのゴムや椅子のキャスターのゴムなどによって、ビニル床材の表面が変色することがありますので、間に保護板を入れてください。

耐摩耗性試験

〈試験方法〉 適用規格：JIS A 5705 (ビニル系床材)
試験条件：JIS A 1453 (建築材料および建築構成部分の摩耗試験方法研摩紙法)
試験荷重：500gf、回転数 1000 回転

プリント塩ビタイル試験結果

試験項目	試験片番号				平均
	1	2	3	4	
摩耗質量 (mg)	500 回転	39	52	41	44
	1000 回転	78	94	79	83